

クズの繊維を採って 織物体験

日野原 純子（柏市）

日時：2023年8月5日（土）9時30分～15時

場所：21世紀の森と広場（松戸市）パークセンター2階 多目的室&デッキで作業
みどりの里でクズ採取、天気：晴れ、34° C

参加者：14名（内 子ども7名、6家族）、講師：日野原、スタッフ：渋谷・三角・三嶋

足の手術をして 歩行に制限があるため 事前の打ち合わせは Zoom やメール・電話などで行いました。事前準備も三嶋さんが織機の準備、三角さんと渋谷さんは参加者に配る葛糸の採取・準備と手分けし担当しました。私は自宅でできる『織棒』や蔓の模型を作りました。

挨拶に続いて クズの謂われについて、秋の七草の一つで 甘い香りのする濃い赤紫色の花を咲かせ、食用（葛湯）・薬用（葛根湯）で馴染んでいます。アメリカで大繁殖のため侵略的外来種 グリーンモンスターと呼ばれていることなどの話をしてから野外に出ました。熱中症の心配があるため、外にいる時間を少なくしようということで、クズのツルを一人1本採ったら戻ることとして、30分の野外観察となりました。

その後の工程は

- ① 持ち帰ったツルをリース状にして沸騰した湯で 30分煮ました。当日のテラスは風が強クカセットコンロの周りをアルミのガードで囲むなどをして対策しました。
- ② 煮えるまで参加者は多目的室に戻り織機を作ります。織機は板に目盛りテープを貼り ダルマピン20本を刺し 打ち付けるのに木づちなどを使いましたが だれも指を打ち付けてケガをすることなく、みんな上手にできました。
- ③ その後、糸をピンに架けますが 経糸を10本にする人と20本にして細かく織る人とそれぞれの方法で経糸を張りました。
- ④ その間にツルが煮あがり、次は皮を剥く作業です。テラスで行いました。昨年、間違えて皮を捨ててしまった人がいたため、今年は模型（発砲スチールの芯に布を巻き付けたもの）を使い、皮を剥くように布をはいで、捨てる部分は芯だと説明しました。
- ⑤ 多目的室に戻り、皮から糸を取り出します。これが一番大変でなかなかうまくできず、短く切れたり枝分かれがたくさん出てしまった人もいました。今年の糸はやや緑がかっていました
- ⑥ 自分で引いた葛糸と担当が用意した葛糸を使って織ります。
昨年の反省で、紙で作った杼が濡れてしまったり、曲がってしまい何枚もの「紙の杼」を使った人がいたため、織り糸が短いので、ゴム通しの長いものでもよいかもという意見があり、よく似たものを針金で作りました。それは18番の針金を二つに折り、マスキングテープを巻いたものです。
『編み棒』ならぬ『織棒』です。長すぎたので、途中で短くしましたが みんな上手に使っていました。
- ⑦ 最後に出来上がったものを机に並べて見ましたが、自分で取り出した葛糸と事前に担当が作った葛糸を上手に使ってそれぞれ個性ある作品が出来上がりました。

参加者からは「がんばってきれいなのができました。『クズが ああいうしょくぶつなんだな』とおもいました。おりものはやったことがあったけれどクズでやったのは はじめてでした。たのしかったのでまたやりたいです。」「身近にあるクズを使ってこのような織物がで

きることに驚きました。自分のも 子どものも それぞれ個性があり とても素敵なコースターになりました。身近な自然の中から 生活に使えるものが出来上がる体験を通して 人間の暮らしが自然と共にあることを子どもが体感してくれたらと思います。そして何より 物づくりは楽しかったです。」 などの感想を頂きました。

スタッフの振り返りとしては ・パークセンターより備品の借用ができ、前日に会場設営や準備確認もできたので、当日は余裕をもって実施できた。・抽選で 20 名の参加者の予定が、当日 3 家族 6 名の不参加者が出たのは残念でした。・猛暑の中での、野外活動やデッキでの煮る作業を行ったが、けがや熱中症などが無く安全に実施できてよかった。などでした。



秋の七草 きれいな花は匂いも良かった



蔓を切り取り 名前入りのテープでくくりました



分かりやすく説明するために 模型を作りしました

針金で作った 織棒



表皮の両面を剥いで繊維を採り出します



織機を作って、イザ 織物体験！



皆でこんなコースターを織りました